

## はじめに

網走地区消防組合は1市1町（網走市・大空町）で構成し、発足以来「市民の安全・安心の確保」に努めております。

現消防本部・網走消防署庁舎は、竣工から52年が経過し、建物・設備の老朽化が進み、耐震診断では、「震度6強から震度7の地震の振動及び衝撃に対して倒壊や崩壊する危険性が高い」とされています。また、消防車両の大型化に伴う車庫の狭隘化、迅速な出動のための準備スペース不足など様々な課題を抱えています。

近年の全国各地で多発する地震や風水害などの大規模災害を踏まえ、地域の防災拠点である現庁舎の機能強化及び改善は喫緊の課題となっております。

このような状況を踏まえ、新庁舎の建設に向けて、現庁舎が抱える課題を整理し、新庁舎の建設に向けて、求められる機能、規模などを検討、整理します。

## 庁舎の課題

### （1）耐震診断結果

震度6強から震度7の地震の振動及び衝撃に対して倒壊や崩壊する危険性が高いとされています。

### （2）施設の老朽化

竣工から52年が経過し老朽化が進んでいます。



外壁材の割れ・剥離



配管設備の劣化

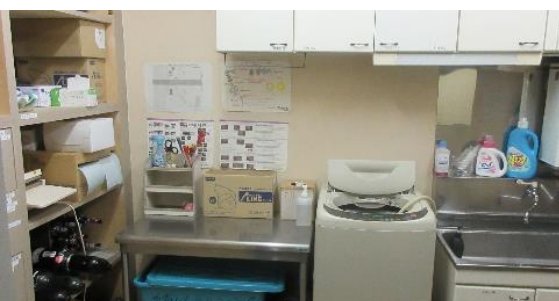


天井漏水跡

### （3）非効率な環境



狭隘な車庫



複数の機能を兼ねた救急物品庫  
(救急出動準備室及び消毒乾燥室)

### （4）その他の課題

現庁舎は津波浸水想定区域に指定されています。また、消防署事務室が分散しているため来庁者にわかりづらい配置となっているほか、エプロンが狭隘なため、車両の入庫が非効率となっています。

## 基本方針

### （1）構造・規模の検討

国土交通省が定める「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」に順じ、規定の耐震性、安全性を満たす構造とします。また、業務効率を確保しつつ、人口減少を踏まえ必要最小限の面積とします。

### （2）快適な執務環境の確保とバリアフリー化

車両の排気ガス対策等により、職員の健康と安全の確保を図るとともに、快適な執務空間・待機スペースを確保し、バリアフリーに対応した庁舎とします。

### （3）環境負荷の低減

省エネルギー対策を図るとともに、環境に配慮したエネルギー効率の高い庁舎とします。

### （4）一時避難エリアとして機能する施設

新消防本部庁舎建設予定地は、車止内川の浸水想定域に含まれていることから、周辺住民の一時避難エリアとして必要な機能の検討を行います。

### （5）女性職員が活躍できる環境整備

女性職員の配置を想定した環境整備を行います。

## 建設場所

### （1）建て替え位置の検討

建て替えに必要な「敷地面積」と「適地の条件」を整理し、条件に合う公有地・私有地を検討した結果、現消防本部庁舎位置と中央公園の一部の2箇所を候補地としました。



### （2）検討結果

候補地について、「ハザード」、「コスト」、「事業期間」について検討した結果、建て替え位置を中央公園の一部と選定しました。

# 新消防本部庁舎建設基本構想（概要版）

## 庁舎の規模

### (1) 職員数

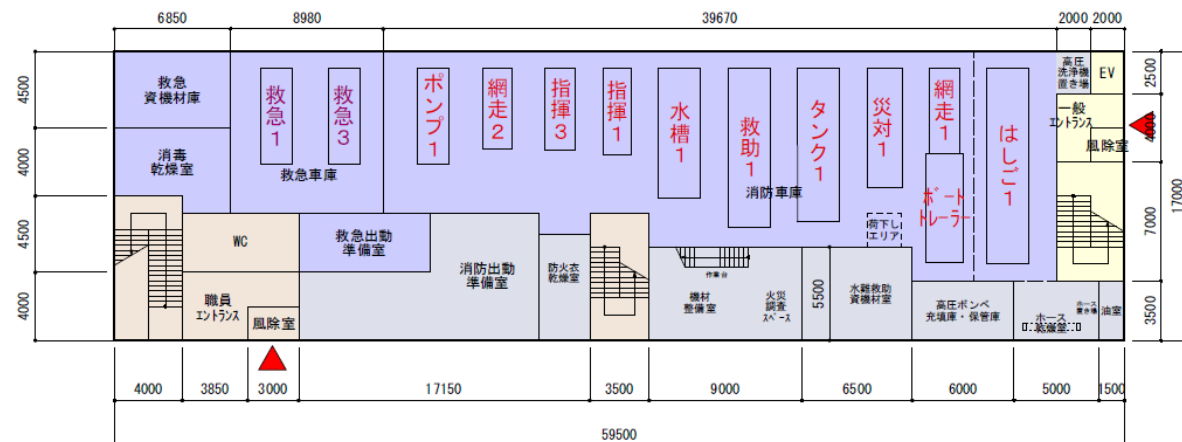
勤務する職員数は、現在と同等の水準を確保しつつ、南出張所庁舎から消防本部庁舎への消防指令センター移設に伴う配置換えを行います。

### (2) 敷地面積

中央公園への建て替えに必要な面積は、消防本部庁舎1階（建築面積）及び敷地の配置の検討結果から敷地面積を示します。

### (3) 1階の必要諸室（建築面積）

消防・救急隊員が即座に出動するため必要となる諸室を検討した結果、建築面積は1,011.5㎡となります。



図：1階諸室の想定レイアウト

### (4) 延床面積

同規模程度の庁舎建設事例を参考とし、総面積は約2,600㎡と想定します。

## 事業計画

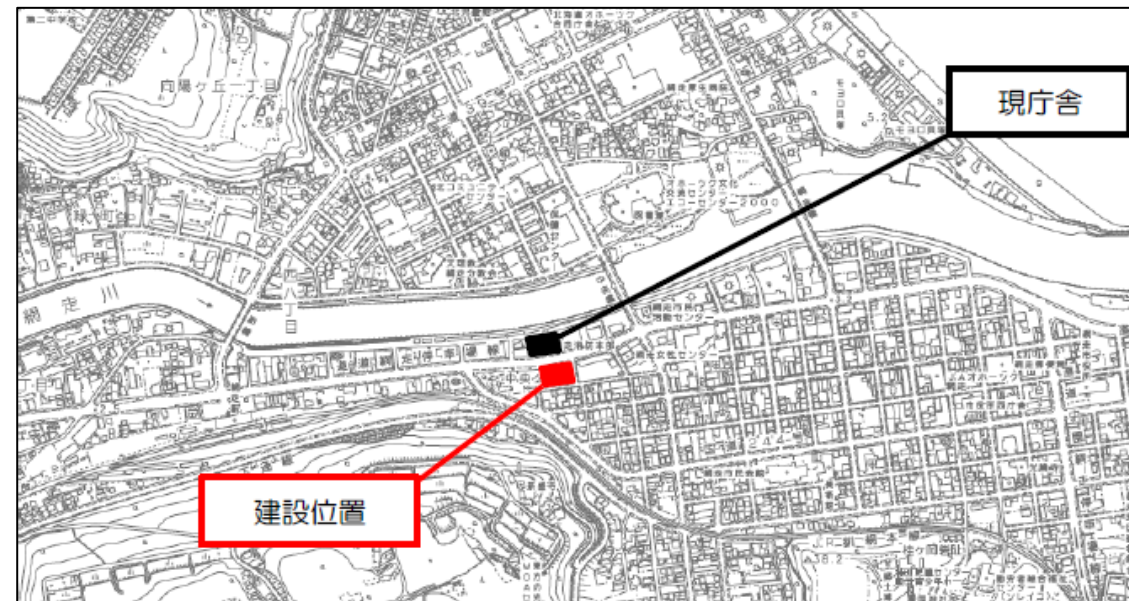
【概算事業費】 約22.6億円

【事業スケジュール】



## 建設計画

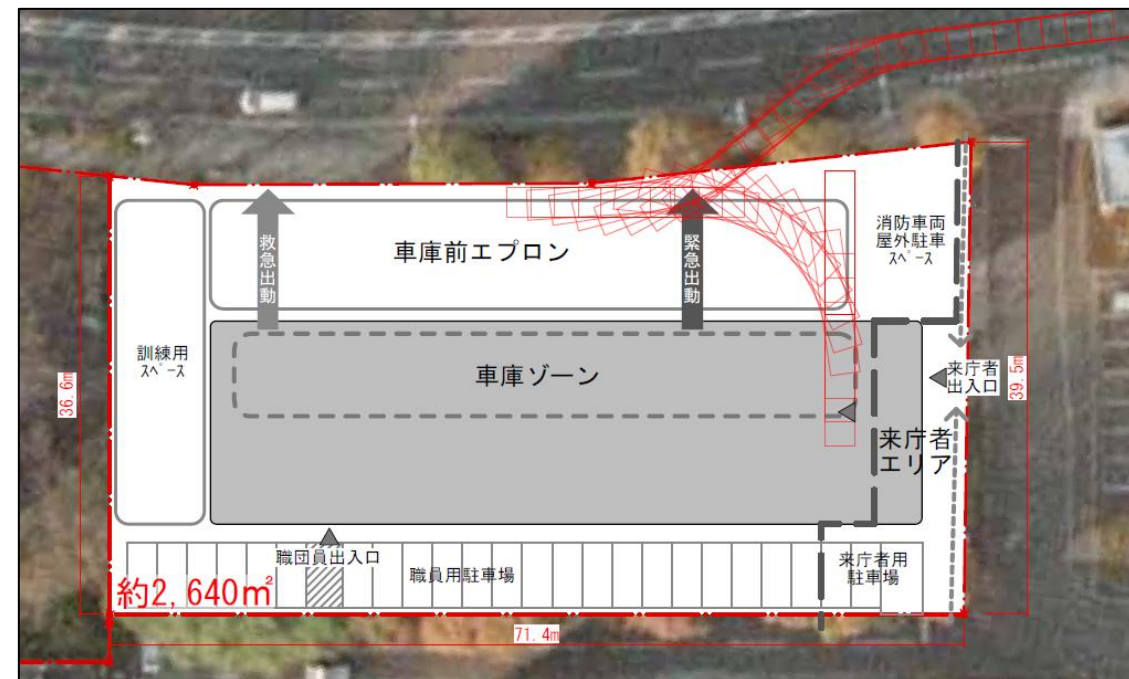
### (1) 建設位置



図：建設位置

### (2) 配置計画

一般来庁者が通行するエリアと消防・救急の出動導線に留意しつつ、「本部庁舎」「エプロン」「日常的な訓練を行うスペース」「駐車スペース」を配置します。



図：配置計画

以上により、新消防本部庁舎の敷地は幅約36.6m～39.5m、長さ約71.4m、敷地面積約2,640㎡として建設します。